

## 安達太良山の火山活動解説資料（平成29年2月）

仙台管区気象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況（図1～3、図4-①）

若宮に設置している監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

16日に陸上自衛隊の協力により実施した上空からの観測では、沼ノ平火口付近の地熱域に特段の変化はなく、噴気は認められませんでした。

#### ・地震や微動の発生状況（図4-②～④）

火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

#### ・地殻変動の状況（図5、図7）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

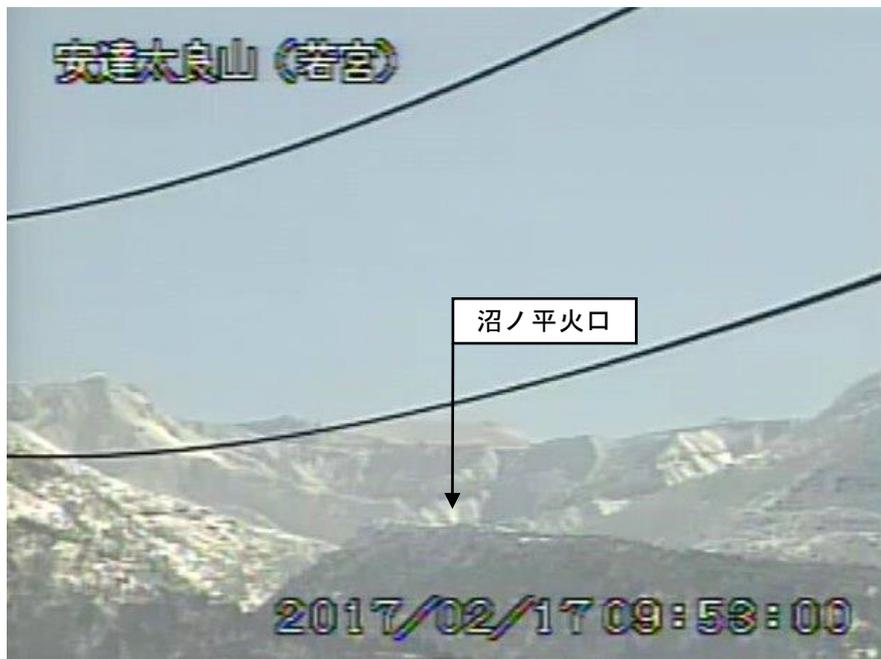


図1 安達太良山 沼ノ平火口周辺の状況（2月17日）

・若宮（沼ノ平火口の西北西約8km）に設置している監視カメラの映像です。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成29年3月分）は平成29年4月10日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院及び東北大学のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平26情使、第578号）。

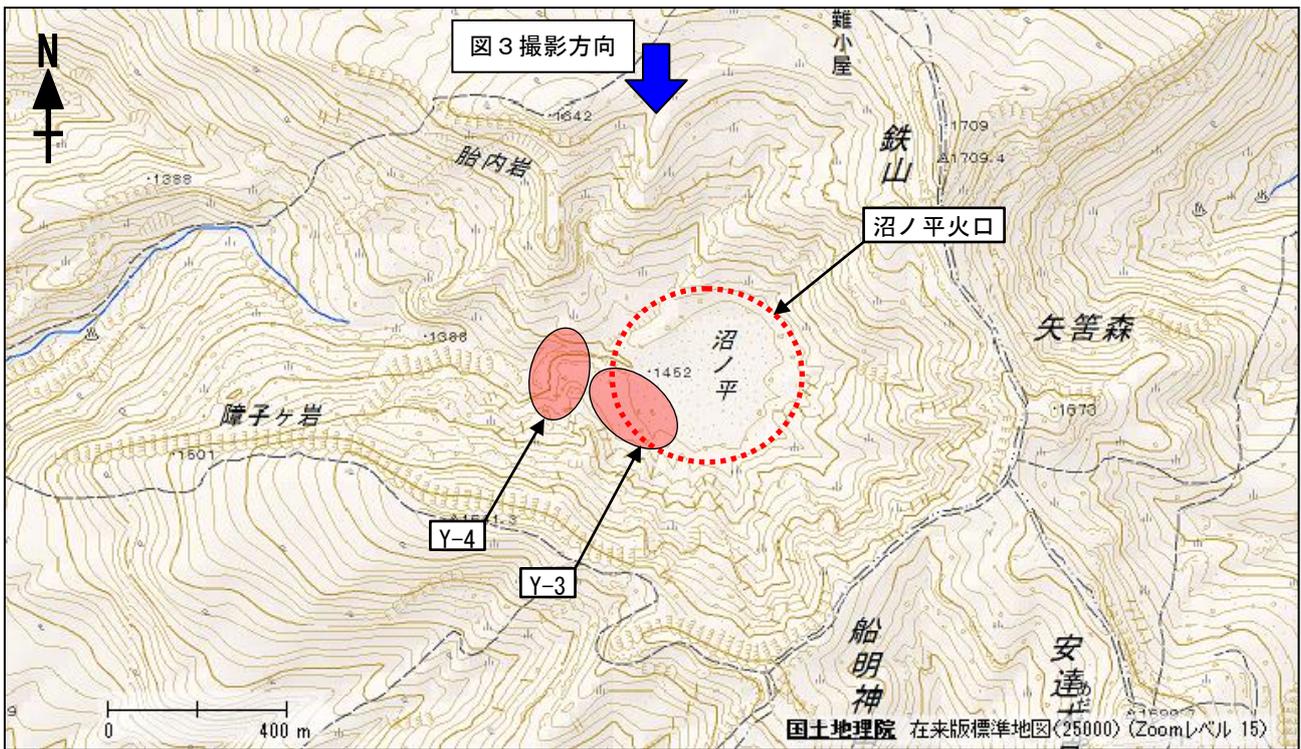


図2 安達太良山 地熱域の分布及び上空からの写真と地表面温度分布<sup>1)</sup>の撮影方向

1) 赤外熱映像装置による観測。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

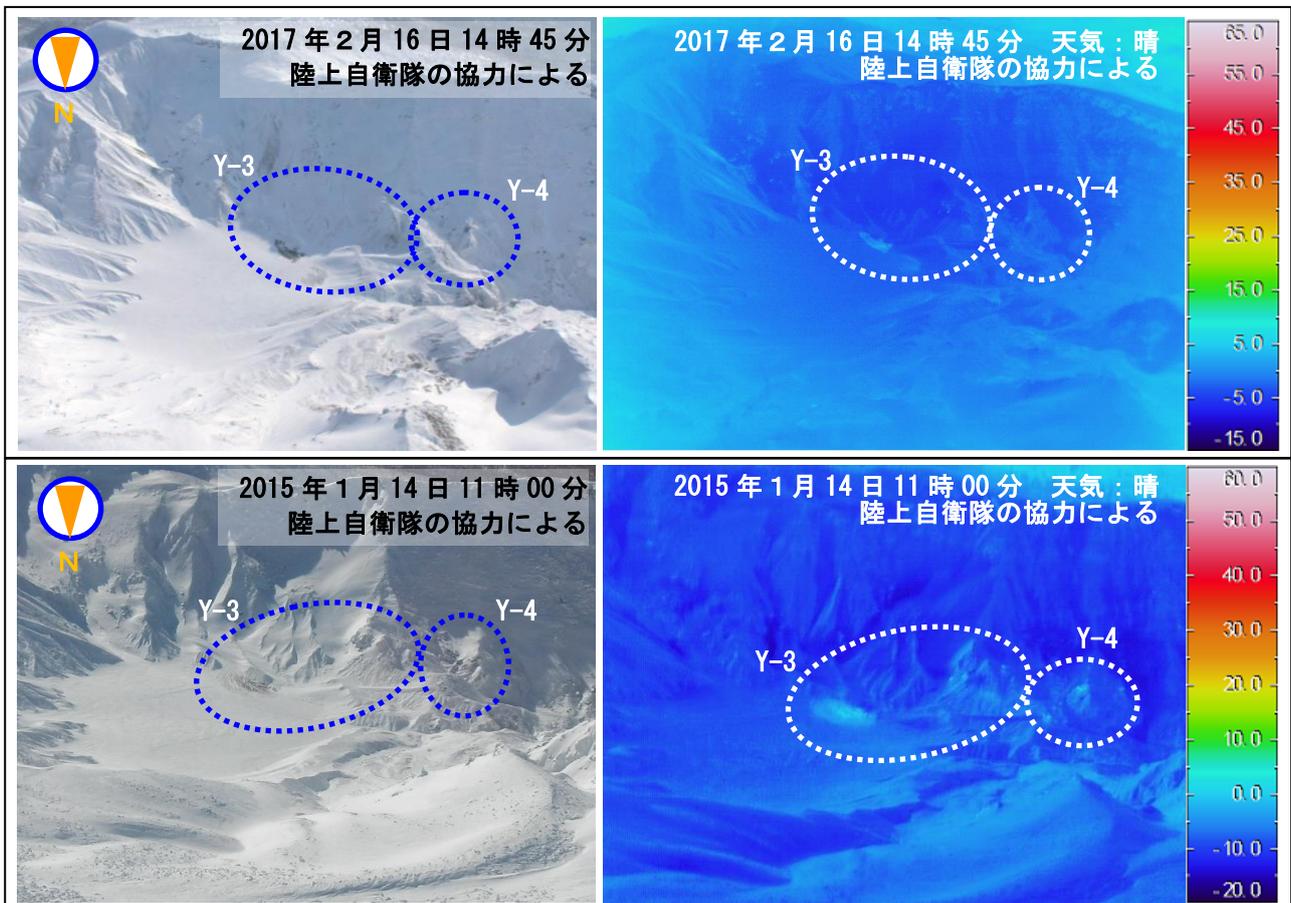


図3 安達太良山 上空から撮影した沼ノ平火口付近(Y-3、4)の状況と地表面温度分布

・前回（2015年1月14日）と比較して、地熱域（点線領域）に特段の変化は認められませんでした。  
 ※前回は、今回と比較して日射の影響をやや強く受けているとみられます。

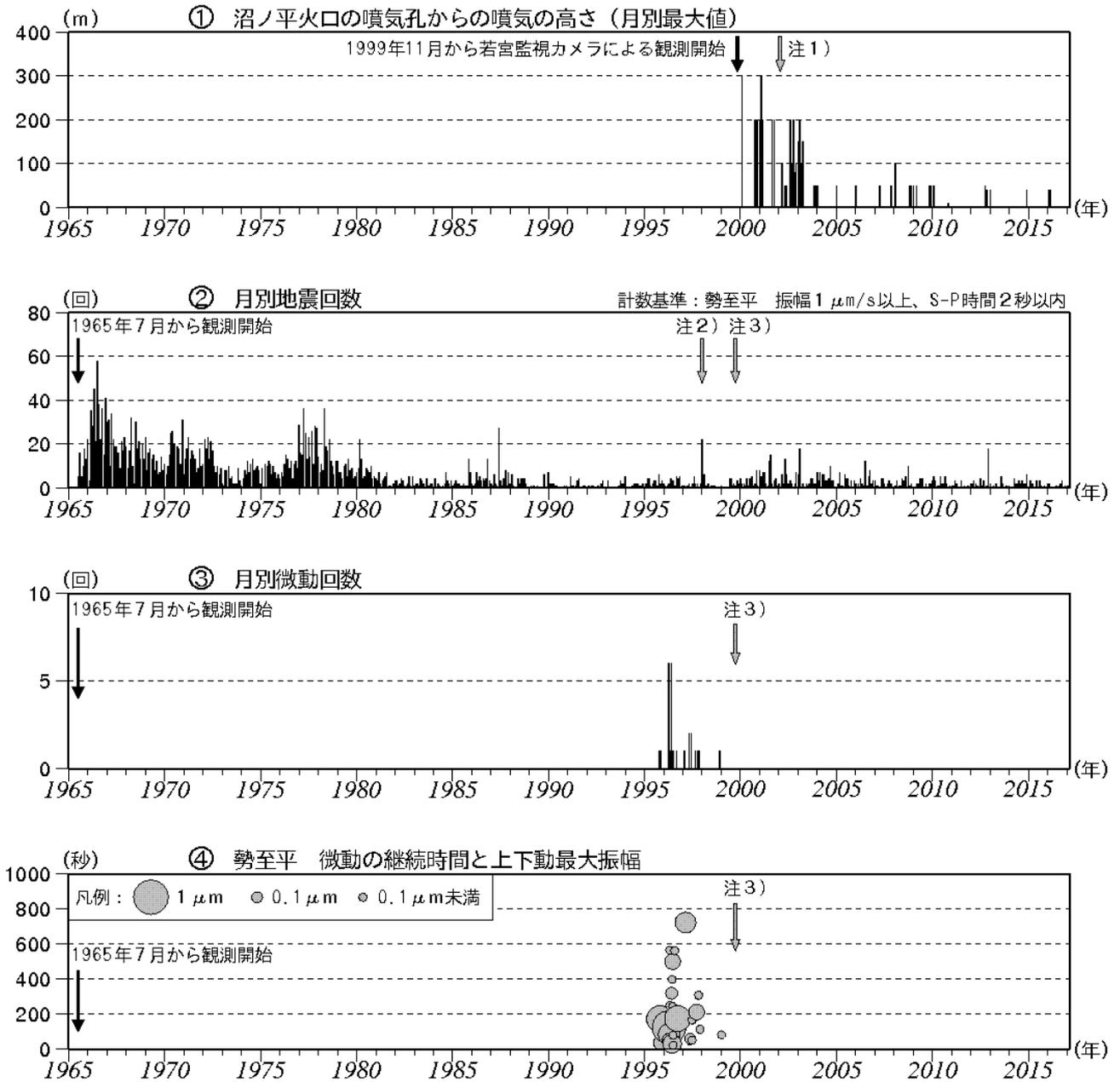


図4 安達太良山 火山活動経過図（1965年7月～2017年2月）

- ・①注1) 2002年2月以前は定時（09時、15時）及び随時観測による高さ、2002年3月以降は24時間観測による高さです。
- ・②注2) 1998年より計数基準をS-P5秒以内からS-P2秒以内に変更しました。
- ・②～④注3) 1999年10月に基準観測点を塩沢観測点（沼ノ平火口から東北東約6km）から新設した勢至平観測点（沼ノ平火口から東北東約3km）に変更しました。

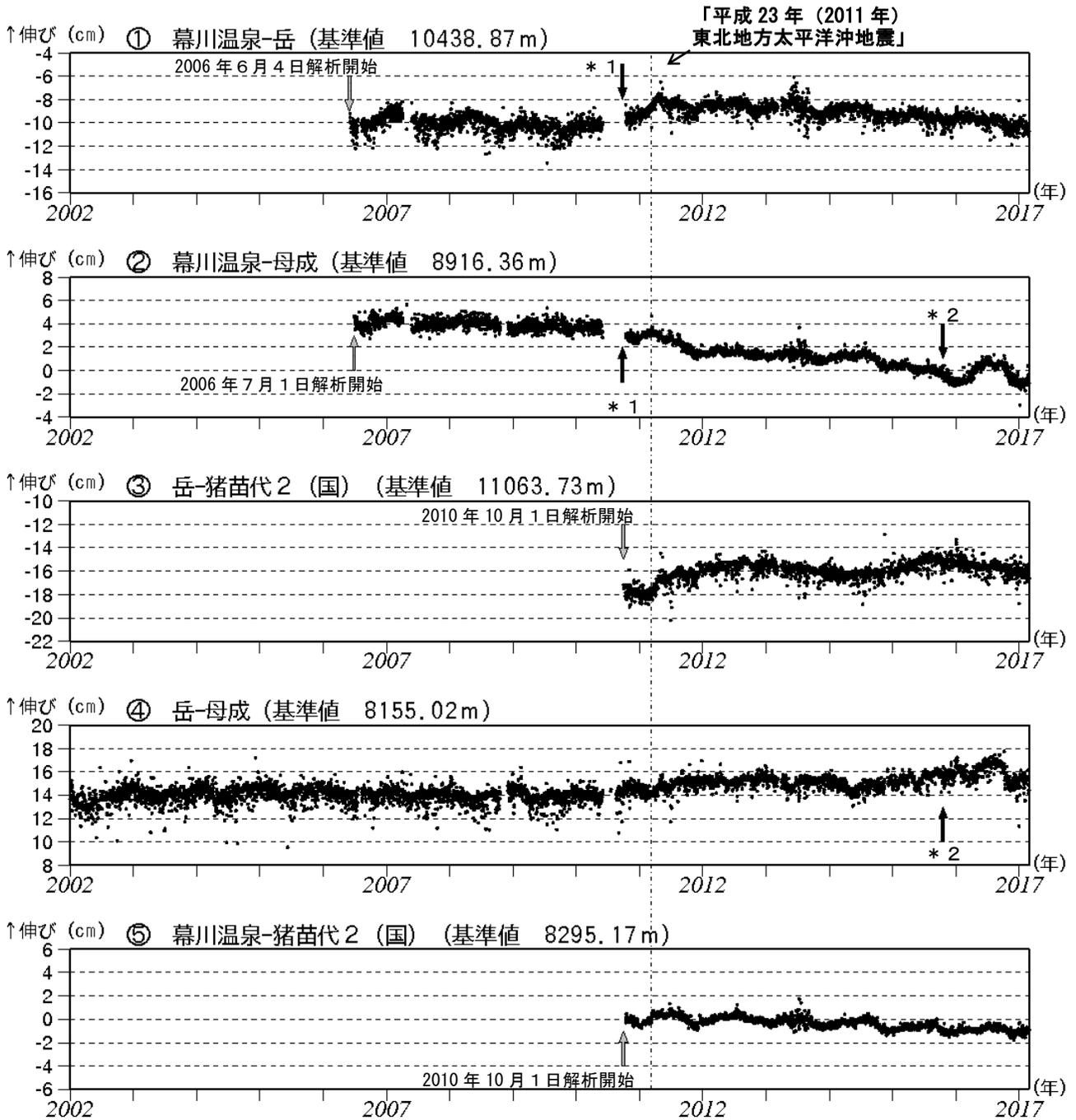


図5 安達太良山 GNSS<sup>2)</sup> 基線長変化図 (2002年1月~2017年2月)

- ・2010年10月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。
  - ・「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
  - ・①~⑤は図7のGNSS基線①~⑤に対応しています。
  - ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
  - ・各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。
    - \* 1 : 幕川温泉観測点の機器更新を行いました。 \* 2 : 母成観測点の機器更新及び移設を行いました。
  - ・(国)は国土地理院の観測点を示します。
- 2) GNSSとはGlobal Navigation Satellite Systemsの略称で、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示します。

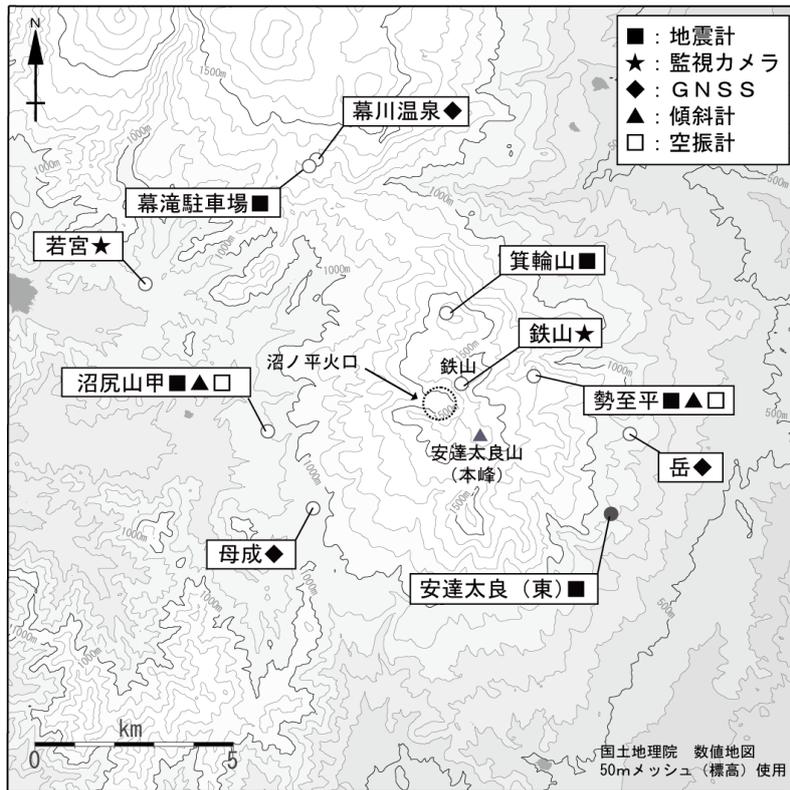


図6 安達太良山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（東）：東北大学

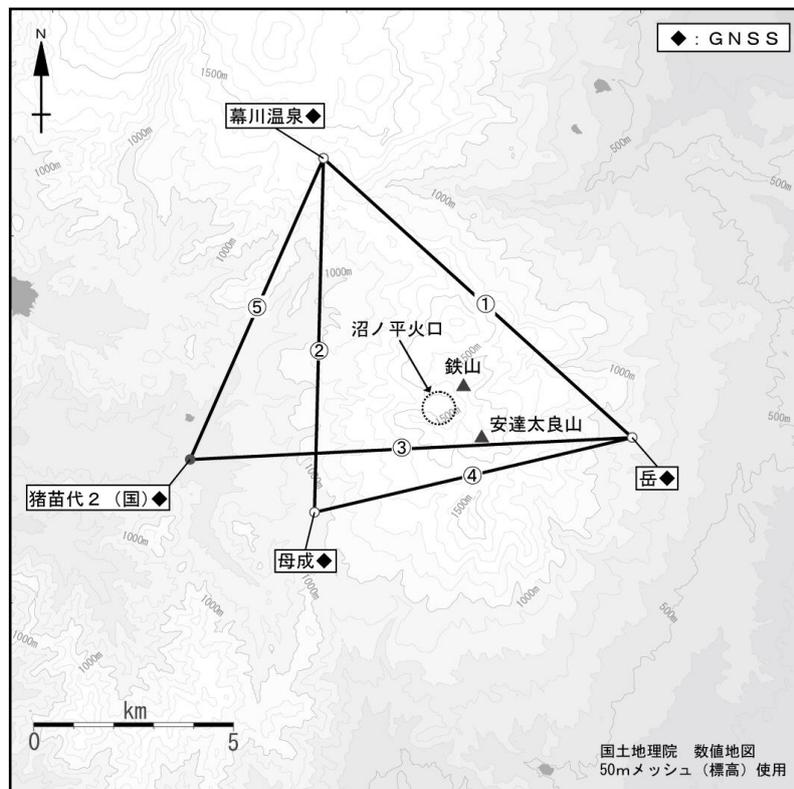


図7 安達太良山 GNSS 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院